

# 活発な農業委員会活動を目指して

## 宇陀市農業委員会

### 1. 宇陀市の農業の概要

宇陀市は、奈良県の北東部、大和高原と呼ばれる高原地帯に位置しており、一定の平野部を有しているものの、山林が7割を占めています。農地は1割程度でほとんどが中山間地域となっています。

気候は内陸性気候で、冬は季節風の影響を強く受けるため寒さが厳しい一方で、夏は冷涼です。この自然に恵まれた環境から作り出された宇陀の水、空気と豊かな土地の中で、ハウレン草、白菜、宇陀金ゴボウ、椎茸、ダリア、牛肉などが生産されており、主な農畜産物となっています。

しかし、近年、農業者の高齢化、後継者不足、サル、イノシシ、シカ等の鳥獣被害による耕作放棄が進んでいます。また、農地転用、中でも発電設備への転用件数も増え、農業全体に衰退傾向が見られます。一方、市が推進する6次産業化に伴う新たな法人参入もあり、農地集積が図られたところもあります。

### 2. 農業委員会の取り組み

#### ① 視察研修について

当市の産業振興の基本方針として、「資源の活用と都市とのコラボレーション」や、「農業の6次産業化の推進」、また、「特産品のブランド化、インターネットによる販売の推進」を図っています。これらを踏まえ、今年度は、農政部会の企画により、「ヤンマー遊悠ファームとよの」と「農業法人こと京都株式会社」の視察研修を行いました。

「ヤンマー遊悠ファームとよの」は、大阪豊能町で遊休化の恐れのある60aの農地を借り受け、農業生産及び都市住民の農業体験を提供するモデル農場として開設されています。こちらにおいては、体験型農園を通して都市と農村の架け橋的な存在になっていることや、資源を有効活用して、安心・安全でおいしく、高品質で特徴的な資源循環農法の推進、消費者からは食の安全と付加価値のある農産物の生産が求められていることを学びました。当市においても、農業従事者の高齢化や担い手不足の進行により、遊



休農地の増加が懸念されているので、活動の参考にしていきたいと考えています。

続いて、6次産業として成功している「農業生産法人こと京都株式会社」においては、九条ねぎの生産から加工、販売までの課程を視察研修しました。農業者の代表である農業委員が、当市での取り組みに参画していきたいと考えています。



### ②うだ産フェスタでの取り組み

今年度新たな取り組みとして、10月に2日間、市の主催で行われた「うだ産フェスタ」において、「農業委員会相談コーナー」を開設し、遊休農地に関する相談や農業者年金の加入促進及び全国農業新聞の購読促進に向けたPR活動を実施しました。「地域に根ざした活動ができているか」「農業委員の活動をPRして、もっと身近な存在に」との想いで取り組みました。

### ③農地パトロールの実施

農業従事者の高齢化や担い手不足による遊休農地の増加は深刻な問題となっています。遊休農地の解消と無断転用の有無など、大切な農地を守るため、8月に4日間かけて、農業委員全員で市内を巡回しました。各地域での委員個々の取り組みとしては、遊休農地解消のため、斡旋や指導、苦情等の対応を行っています。



### ④今後の課題

遊休農地を解消するためには、地域の農業を支える担い手の確保や育成が不可欠です。

認定農業者などの担い手への利用集積と、遊休農地の解消に向けた利用意向調査等、農業委員会が果たすべき使命や役割はますます重要となっています。

また、6次産業化の推進や付加価値のある収益性の高い農作物の活用により所得の安定を図り、安定した農業経営ができるよう、情報の提供や体制の強化を図らなければならないと考えています。

